

(仮訳)

プレス・リリース

2014年11月10日

金融安定理事会

**金融安定理事会はグローバルなシステム上重要な銀行の総損失吸収力（TLAC）
に係る共通の国際基準に関する提案の市中協議を実施**

金融安定理事会 (FSB) は、本日、グローバルなシステム上重要な銀行 (G-SIBs) の損失吸収力・資本再構築力の充実に関する原則及び詳細なタームシートから構成される政策提言を市中協議に付した。

この提言は、2014 年末までに提言を策定するという 2013 年サントペテルブルク・サミットでの G20 首脳の要請に応えるものである。提言は、バーゼル銀行監督委員会 (BCBS) との協議のうえで、FSB によって策定され、最終化されれば、総損失吸収力 (TLAC) のための新しい最低基準となる。新しい TLAC の基準は、ホーム当局とホスト当局に、破綻処理前及びその最中において、G-SIBs が十分な損失吸収力を有するとの確信を与えるとともに、破綻処理当局が、金融の安定に与える影響を最小化し、G-SIBs の重要な経済機能の継続を確保する破綻処理戦略を実行することを可能にするものである。

納税者の負担によらずに G-SIBs を破綻させるという当局のコミットメントの信頼性を強化することにより、TLAC は、他の手段と相まって、現在 G-SIBs が負債を発行する際に享受している、暗黙の公的支援を取り除くとともに、債権者に対して、G-SIBs のリスクテイキングを一層監視するインセンティブを与えることになるはずである。また、TLAC は、G-SIBs の資金調達コストに関する優位性を低下させ、本国および外国の市場においてより平等な立場で競争することを確実にすることによって、公平な競争環境を国際的に実現することにも役立つはずである。

TLAC が充分かどうかについては、それぞれの G-SIBs の再建・破綻処理計画、システミックな要素、ビジネスモデル、リスクプロファイル、組織構造を考慮する必要がある。それゆえ、原則及びタームシートは、共通の第一の柱に基づく最低限の TLAC に加えて、銀行ごとに異なる第二の柱に基づく TLAC の要件を決定する方法についての指針をホーム当局とホスト当局に示すものである。各行ごとの TLAC の水準及び構成要素は、危機管理グループ (CMG) と連携を取りな

がら決定され、FSB の破綻処理可能性評価プロセス（RAP）における検証に服することになる。

2015 年初めには、FSB は BCBS 及び国際決済銀行（BIS）と協働して、全ての G-SIBs に適用される TLAC の第一の柱の水準を決定する際の判断材料とするために、包括的な影響度調査を実施する。TLAC に関する提案は、今回の市中協議と影響度調査の結果を考慮した上で、次回の 2015 年の G20 首脳サミットまでに最終化される。

FSB 議長であるマーク・カーニーは次のように述べている。「G-SIBs に対する TLAC に係る共通の国際基準に関する提案が合意されたことは、銀行の『大き過ぎて潰せない（too big to fail）問題』の終結にとって重大な分岐点である。実施に移されれば、これらの合意はグローバルにシステミックな銀行を、公的資金への依存や広範な金融システムの混乱を招くことなく破綻させる上で重要な役割を果たすだろう。」

FSB は市中協議文書に関するコメントや質問に対する回答を 2015 年 2 月 2 日（月）まで歓迎する。回答は fsb@bis.org 宛にお送り頂きたい。回答は、回答者が非公表扱いにすることを明確に希望しない限り、FSB ウェブサイトにて公表される。